

坂 建 第 9 6 号
平成20年10月23日

国土交通省道路局長 様

坂町長



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平素から町道路行政の推進に対し、厚く御礼申し上げます。

さて、平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあったことについて別紙のとおり回答します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

広島県坂町

・道路特定財源に代わる道路整備財源の確保

道路特定財源制度の一般財源化が、平成 20 年 5 月 13 日に閣議決定されたが、地方は公共交通が十分整備されていないため、大都市と比較し車の依存度が高い。道路は、もう必要ないとの意見は、今まで、道路を十分整備してきている都市部の意見であり、地方はまだまだ不十分である。ガソリン税等は、車を利用する者が負担し、道路の整備に充当しているもので、地方にとって必要な道路の整備が十分果たされた上で、税が余っているのであれば、他へ使用してもやむを得ない。地方の道路整備のための財源確保を強く要望する。

・高速道路のネットワーク化について

地域活動や災害活動に迅速に対応するための機能的な高速道路のネットワーク化が必要である。また、高速道路へアクセスする道路の整備を促進し、地域と一体的なネットワーク化も必要と考える。

・国道の整備について

広域幹線道路としての一般国道は、地方にとって最重要路線である。これらの国道沿線では開発がおこなわれ、地方の活性化につながっている。開発により交通量の増加が予想され、開発時に開発区間の 4 車線化が図られている。しかし、その他の区間は現状の 2 車線のままで、ここがボトルネック状態となり、交通渋滞が慢性化し、企業活動や住民生活にも支障をきたしていることから、当該区間のような箇所についての重点的な整備が必要と考える。

・地方道路の整備について

道路整備は、交通量の多いところ、費用対効果の高いところを優先してきた。これも大事だが、地方の道路は費用対効果だけでは計算できないところがある。今までどおりの道路整備では、地域間格差が益々広がるのは明白で、地方にも応分の配慮をしなければならないと考える。

また、日本における今後の食料自給率の向上や地方都市の地域活性のためには、更なる地方道路の整備が必要と考える。

- ・有料道路の有効活用について

一般国道及び主要地方道の渋滞緩和策として、一般有料道路の利用促進のための料金の見直しや ETC 導入の促進が必要と考える。

また、全国の高速度道路や有料道路等の無料化が更なる道路の有効活用が図られると考える。(フリーウェイ)

- ・歩道整備について

歩行者の安心・安全の確保、健康維持のためのウォーキングや福祉活動等を支援するとともに、地域の魅力を再発見し、心豊かなライフスタイルの形成を図るための歩行者空間(歩道)の確保や今後益々増加する高齢者等、誰でもが安心して利用できる歩道整備(バリアフリー化)が必要と考える。

②-1 地域の現状と抱える課題

広島県坂町

○ 現状

本町は、広島市と呉市に隣接し、JR 呉線、広島呉道路、一般国道 31 号で両市の中心部へ 30 分と利便性の高い町でありながら、海と山の自然環境に恵まれている。

近年、埋立による新市街地の北新地地区及び平成ヶ浜地区は、工業団地、公園、住宅、役場庁舎、機動隊宿舎や警察学校などの公共施設等があり、道路などインフラが整備されている。

一方、旧市街地においては、幹線道路の幅員が狭く自動車の離合が出来ない状況にある。このため、「若者は社会人になると町を出て行く」、「高齢者などの福祉対策が十分でない」、「緊急車両のスムーズな活動の困難性」等、新市街地と旧市街地の格差が生じている。

また、一般国道 31 号の坂駅北口交差点から北新地までは、2 車線であるため慢性的渋滞により、機動隊の緊急出動や経済活動に大きく支障をきたしている。さらに、この区間内に歩道幅員が狭い箇所があり、非常に危険で歩行者の安全確保がなされていない。

○ 課題

旧市街地の道路整備が緊急の課題であり、現在取り組んでいる県道坂小屋浦線を 1 日でも早く工事着手をすること及び早期完成をすることである。

また、一般国道 31 号の渋滞解消、歩行者の安全確保を図るため、1 日も早い 4 車線化と歩道整備をすることである。

②-2 地域の目指すべき将来像

本町は、「自然に恵まれた健康で文化的な住みよいまち」を将来像として、魅力あるまちづくりを推進している。このようななか、埋立による新たな市街地は、インフラが整備され、都市機能の集積が図られ住みやすい環境が整っている。一方旧市街地は、インフラの整備が遅れ、幹線道路の幅員が狭く、車両の離合が出来ない区間が多く、不便をきたしている。このため、若者は町外へ流出し空き家は増え、高齢化率がますます高くなっている。幹線道路が整備されていない状況では、この地区への福祉対策、緊急車両のスムーズな進入などの不安材料があり、住民の安心・安全が十分確保されず、このままでは、新市街地と町人口の約4割に当る5,000人余りの方々が住んでいる旧市街地の格差が益々広がっていく。旧市街地の幹線道路の整備については、現在一般県道坂小屋浦線として、事業着手中であるが、1日も早い工事着手と工事完成が本町にとっては最重要事項の一である。旧市街地は幹線道が整備されることにより、若者の定住、人口の増加、福祉の充実等また、地域間格差を解消し、住民全体の公平性を保ち、夢と生きがいを感じられる町にしていくとともに、坂町に住みたい、住み続けたいと思われる町にしていく。

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

広島県坂町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価	○その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域活力の向上 ・ 総合的な交通安全 ・ 災害に強い地域づくり ・ 地域活力の向上 ・ 良好な生活空間の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 坂駅北口交差点から県立安芸南高校までの4車線化 ・ 一般県道坂小屋浦線の早期整備 	<p>・ 坂町の平成ヶ浜地区は、埋立により新市街地が形成され、工業団地への企業進出、住宅、役場庁舎、機動隊庁舎や警察学校など施設が張り付き、これらの活動において左記区間の渋滞が激しく、支障をきたしている。効果として、産業活動の効率化、緊急時における機動隊等のスムーズな活動等、十分期待される。</p> <p>また、区間内には歩道の幅員が狭小でかつ、車道との分離がなされていない。効果として、運転中の不安及び歩行者の安心・安全の確保等十分期待できる。</p> <p>・ これまで坂地区を支えてきた旧市街地には、現在、町人口の約4割に当る5,000人余りの方々が住んでいるが、幹線道路の幅員が狭く自動車の離合が出来ない状況にある。効果として、緊急自動車の現地到着時間の大幅な短縮、災害時の避難路等災害に強いまちづくりが可能となり、安心・安全の確保等十分期待できる。また、若者の町外への流出に歯止めをかけ、定住化の促進に繋がることで、地域の活性化が期待でき、高齢者等に対しても福祉施策の充実が期待できる。あわせて交通弱者も歩車道分離により良好な生活空間が期待できる。</p>	